

# 第57回 おかねの作文コンクール

金融広報中央委員会は全国の中学生を対象に「おかねの作文」を募集しています。

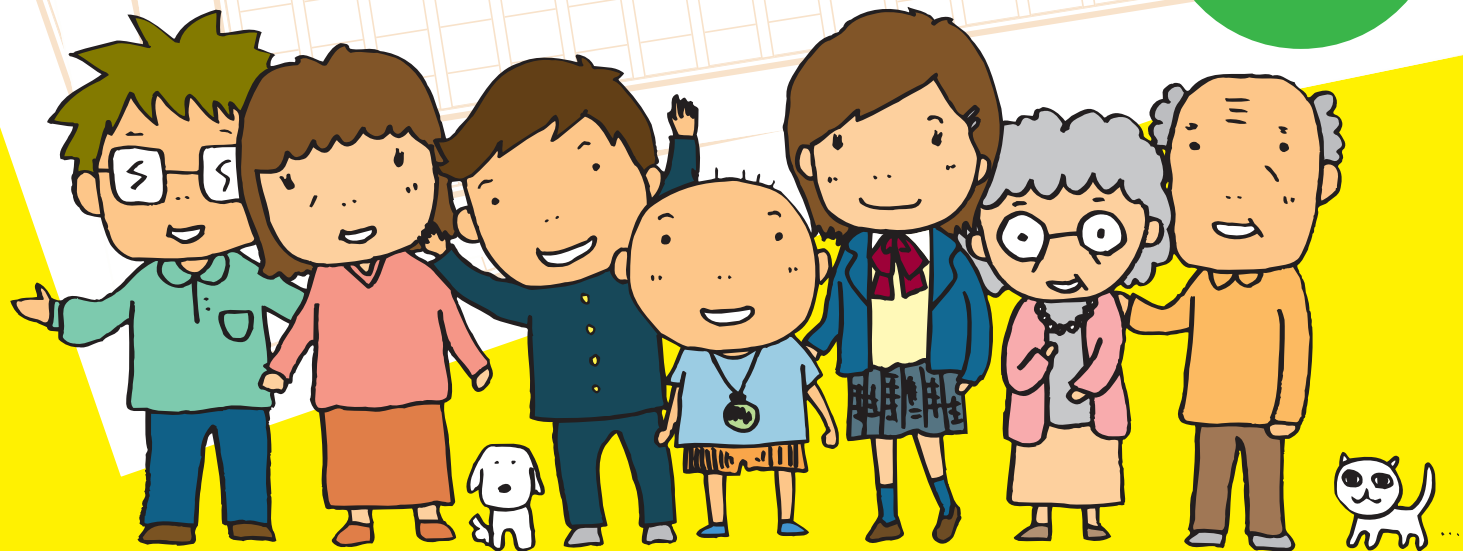
みなさんの見たこと、聞いたこと、感じたことをもとに「おかね」について考えてみよう。



- 特選5編 賞状と 図書カード 4万円分
- 秀作5編 賞状と 図書カード 2万円分
- 佳作10編 賞状と 図書カード 3千円分
- 学校賞5校 賞状と 図書カード 1万円分  
特選受賞者在籍校



9月15日  
締切!!  
消印有効





テーマ（作文に書く内容）は、「おかね」に関するものであれば、どのようなものでも構いません。

テーマを考えるときの参考として、以下に例を示します。ただし、この中から選ぶ必要はありません。自分が書きたいと思う内容を自由に考えてみてください。

テーマを決めた後、作文の内容にふさわしいタイトル（題）をつけてください。

## ■テーマの例

### 1. 将来の夢の実現とおかねの関わり

あなたの将来の夢は何ですか。やってみたい仕事はありますか。あなたが思い描く未来を実現するために、どのようなことを心がけ、準備をしていったらよいでしょうか。あなたの「将来設計」を、おかねとの関わり方を含めてまとめてみましょう。

### 2. 私のおかねのルールやわが家の約束事

あなた自身やあなたの家族で決めているおかねについてのルールはありますか。商品を買うときに心がけていること、携帯電話の使い方、お小遣いのルールなど、消費者として行動の基準としている点はどのようなことですか。2022年4月に成年年齢が18歳に引き下げられたことによる影響なども踏まえながら、整理してみましょう。

### 3. 活きたおかねの使い方とは

おかねの使い方は、その人の価値観や考え方を表すとともに、多少なりとも世の中に影響を与えます。買い物や貯金などについての自分自身の体験や、周囲の人のおかねの上手な使い方について書いてみましょう。

### 4. ニュースにみるおかね

新聞やテレビ等で報道された、おかねが関わるニュースを取り上げて、あなたが思うことを書いてみましょう。身近な地域、中学校、社会や文化、海外や世界が関係するさまざまなニュースの中で、関心を持ったニュースを探してみましょう。

## ■第57回「おかねの作文」コンクール 募集要項

応募資格	中学生
賞	■特選 5編（賞状と図書カード4万円分） ※特選には、後援先等による「冠賞」を授与 ■秀作 5編（賞状と図書カード2万円分） ■佳作 10編（賞状と図書カード3千円分） ■学校賞（特選受賞者在籍校）5校（賞状と図書カード1万円分）
締め切り	2024年9月15日（日）※消印有効
発表	12月中旬頃、主催者ホームページで発表。
応募方法	<div style="display: flex; align-items: center;"><div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-right: 10px;">郵送応募</div><p>〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-17 5F 毎日企画サービス 金融広報中央委員会コンクール事務局「おかねの作文」コンクール係</p><div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-right: 10px;">WEB応募</div><p>下記アドレスに接続し、画面の指示に従って応募フォームにより送信してください。 <a href="https://www.ron2024.jp/">https://www.ron2024.jp/</a></p></div>
問い合わせ先	金融広報中央委員会コンクール事務局 TEL.03-6265-6818（土・日・祝日を除く10時～17時） 金融広報中央委員会コンクール作品募集ホームページ <a href="https://www.ron2024.jp/">https://www.ron2024.jp/</a>



## ■作文指導にあたり、先生方から生徒たちへ伝えていただきたいこと

「金融経済教育」は、経済的に自立し、より良い生活を送るために必要なお金に関する知識や判断力（金融リテラシー）を身に付けることなどを目的としています。最低限身に付けるべき金融リテラシーは、①家計管理、②生活設計、③金融知識及び金融経済事情の理解と適切な金融商品の利用選択、④外部の知見の適切な活用、の4分野に分かれています。作文を書くにあたっては、生徒たちへ上記のテーマの例などを参考に、身の回りのお金や自分の将来に目を向け、考えたことを書くようご指導ください。



金融広報中央委員会とは？

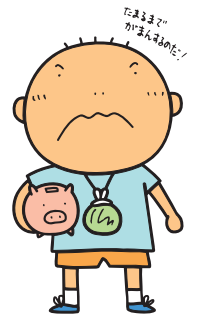
「金融広報中央委員会」（事務局：日本銀行情報サービス局内）は、国民に対し中立・公正な立場から、「金融経済情報の提供」と「金融経済学習の支援」を行っている団体です。

2024年8月に金融広報中央委員会の機能は、「J-FLEC（金融経済教育推進機構：2024年4月設立）」に移管・承継される予定であり、移管・承継後はJ-FLECが主催者として、本コンクール事業を運営します（J-FLECは金融経済教育を推進するため、法律に基づいて設立された中立・公正な認可法人です）。

# あなたは、お金やモノを大切にしていますか？

私たちの周りには、たくさんのモノやサービス、情報があふれています。「豊かな社会」の中で、本当に必要なものを選択し、使っていくことが大切です。お金の使い方もそうです。適切な判断と行動ができる消費者になるためには、将来を見越して計画的にお金と付き合えるようにならなければなりません。

金融広報中央委員会が募集した「おかねの作文」コンクール、昨年は全国から4,867点の作品が寄せられ、20点が入賞作品に選ばれました。これらの作品も参考にしながら、自分の周りで「見たこと」「聞いたこと」「感じたこと」をもとに、自分自身の意見をまとめてみましょう。



## 受賞作品の紹介

過去の入賞作品はこちらでご覧いただけます。

[https://www.shiruporuto.jp/education/contest/container/concours\\_sakubun/](https://www.shiruporuto.jp/education/contest/container/concours_sakubun/)



### 金融担当大臣賞

未来への希望を託して  
神奈川県 慶應義塾普通部 2年  
三橋 永暉さん

**作品の内容** 祖母や母が祖父の病死をきっかけに、毎年、医療研究へ寄付を続けていると知った筆者は、「自分ならどこに寄付をするのか」と考え、途上国の子どもの健康を支援するマンスリーサポートへ月2,000円の寄付を、弟も誘い今も続けています。「誰かの役に立つためだけにするのはなく、未来がこうなってほしいという希望も託している」ことを実感しており、「祖母や母親の話を通じ、お金の価値観が変わり、寄付という行動に結びついている」と評価されました。

**受賞者の声** お金は自分の必要なものや欲しいものを得るためだけでなく、希望を託すことが出来るのだと驚いたことを思い出しながらこの作文を書きました。これからも社会がより良くなるようなお金の使い方を考えるように心がけたいです。

### 文部科学大臣賞

お小遣いも寄付も税金も  
東京都 百合学園中学校 3年  
松尾 凜奈さん

**作品の内容** 筆者は寄付や税金など「自分のお金を誰かに託す制度」に思いをめぐらせ、地球温暖化、少子高齢化などの大きな問題を解決するために大切なことだと考えます。そして、自身が過去に寄付をした経験も踏まえ、自分と相手信じ、正しいと思うことにお金を託すことの繰り返しを社会を良くしていくと結論づけます。「実体験に根差し、寄付や税金について自分なりに調べたことを整理して文章化している。しっかりと自分の考えを述べている」と評価されました。

**受賞者の声** この作文は、普段何気なく使っているお金と真摯に向き合う良い機会になりました。お金のやり取りの根底に「信頼関係」があるべきことを心に留めて、将来、よりよい社会にするために有意義なお金の使い方ができるよう学び続けていきたいです。

### 日本銀行総裁賞

未来につながる価値ある買い物  
千葉県 千葉県立東葛飾中学校 1年  
又多 嶺さん

**作品の内容** 英語検定のためにお小遣いで参考書を購入した筆者は、せっかく買ったから無駄にしたいくないという思いで前向きに勉強に取り組み、検定に合格します。その経験が自信となり、その後の英語学習意欲も高まったと述べています。これまでは「消費」するための手段と思っていたお金の使い方が、「自己投資」という形で有益な使い方ができると実感します。「お金の価値や意義、役割について新しい視点を持ち、成長も感じる」と評価されました。

**受賞者の声** 世の中のお金は変わっていきませんが、自己投資で得られた経験は自分の人生でかけがえのないものになると思います。自分は買物をするときにその値段相応の価値が本当にあるのかということをつい気にしてしまいましたが、自分の未来に役立つ買物をしていきたいと思っています。

### 日本PTA全国協議会会長賞

お金の価値は同じなのか  
千葉県 松戸市立第一中学校 2年  
栗栖 琴音さん

**作品の内容** 欲しい服を見つけた筆者は、お金を集めたり不用品を売ったり、家の手伝いをしますが足りず、そんな時に祖母からお小遣いももらい目標の金額が集まります。しかし、欲しいかが分からなくなりお店で購入せずに帰り、親から「お金の重みが変わった」と言われ、お金を手に入れるための努力や、協力してくれた人の気持ちが、お金のプラスされたのだと感じます。「お金の価値や物の価値は、自分の生き方や取り組み、努力によって変化することを感じてもらえる作品」と評価されました。

**受賞者の声** 何気ない日常の出来事を作文にしました。作文を通してお金の大切さやまわりの人の優しさを再確認できました。家族や友達、先生方も受賞を喜んでくれたことも嬉しく思います。今後も目標を立てて実現するために、何をすべきかを考えて、素敵な思い出を増やしていきたいです。

### 金融広報中央委員会会長賞

通帳が気づかせてくれたこと  
東京都 百合学園中学校 1年  
猪ノ口 里菜さん

**作品の内容** お小遣いなどを貯金している通帳に利息が見当たらず、郵便局(ゆうちょ銀行)の金利を調べると年利0.001%だと知ります。そして、日本銀行が金融緩和政策を続けていることを学んだ筆者は為替レートや海外の銀行の金利にも興味を持ち調べます。郵便局の金利が世界情勢や日本経済に大きく左右されていることを知り、将来得る賃金をどう増やしていくべきなのか自分なりに勉強していきたいと結んでいます。「『なぜ?』と思って調べてみるという姿勢が買われているのは素晴らしい」と評価されました。

**受賞者の声** コンクールを通して、金利や為替などお金に対する理解を深めることができました。また、世界の経済や日本の金融政策に興味を持つきっかけにもなりました。今後も社会の変化に関心を持ち、自分がどのように行動すべきかを考え、成長していきたいです。

### 秀作

適切なお金の支給とは  
京都府 京都市立大宅中学校 2年  
小川 瑠唯さん

「活きたもの」として付き合う賞悟  
京都府 洛南高等学校附属中学校 2年  
武中 聖さん

資金とまちで未来を創る  
徳島県 阿波市立阿波中学校 2年  
林 優希さん

お金の価値  
栃木県 宇都宮市立晃陽中学校 3年  
梅澤 美羽さん

一本のジュースから  
徳島県 徳島文理中学校 3年  
津島 優生さん

### 学校賞

千葉県 千葉県立東葛飾中学校  
千葉県 松戸市立第一中学校  
東京都 百合学園中学校  
神奈川県 慶應義塾普通部

### 前回 審査員 (敬称略)

渡邊 裕美子(金融庁総合政策局総合政策課金融経済教育推進機構設立準備室課長補佐) 藤野 敦(文部科学省初等中等教育局視学官)  
後藤 豊郎(公益社団法人日本PTA全国協議会会長) 中嶋 富美代(全日本中学校国語教育研究協議会会長)  
山田 桂志(日本銀行情報サービス局金融広報課長) 野見山 浩平(金融広報中央委員会事務局次長)



# 応募の注意点

●文字数について 空白を含む1,200～2,000字(作品タイトル・学校名・学年・氏名・参考文献・出典は含みません)



原稿用紙で  
書くなら

400字詰め原稿用紙  
※タテ20字×ヨコ20行  
4枚目3行目以上記入



パソコン原稿で  
書くなら

1行20字詰め  
※1枚につき30行以内

◎作品募集ホームページ(https://www.ron2024.jp/)にある応募用原稿用紙をご利用になることもできます。

## ●応募について

### 個人で応募する場合

- ・下記応募用紙に記入してください(応募用紙はコピー可)。
- ・作品タイトル、氏名(ふりがな)、学校名(ふりがな)、学年、学校および自宅の住所、電話番号、FAX番号を記入して作品に添付してください(応募用紙は必ず本人が記入してください)。

### 学校単位で応募する場合

- ・学校宛てにお送りしています学校専用応募用紙にてご応募ください(学校専用応募用紙はホームページ <https://www.ron2024.jp/> からダウンロードすることもできます)。
- ・下記応募用紙(個人用)は不要です。

◎応募は未発表の作品に限ります(インターネット上での作品公開も発表とみなします)。また、二重投稿はご遠慮ください。 ◎日本語に限ります。 ◎作品は理由を問わず返却しません。  
◎入賞作品の著作権・版権は主催者に帰属します。 ◎佳作の作品は公表しません。  
◎作品公表の際には個別企業名や商品名に関する表記を変更させていただくことがありますので、予めご了承ください。

# 作文を書くにあたってのご注意

- ・本文冒頭1行目に作品タイトル、2行目に学校名、学年、氏名を記入してください。本文は3行目から始めてください。
- ・学校名が長い場合、本文は4行目(学年、氏名を記入した次の行)から記入してください。
- ・規定文字数に達しない作品は審査の対象となりません。  
※原稿用紙によらないパソコン原稿の場合も同様です。
- ・各ページにページ番号を記載し、右肩をホチキスで留めてください。
- ・生成AIが作成した文章をそのまま使った応募はできません。
- ・ご応募いただいた作品が「盗用」・「生成AIによる生成物」であると認められた場合、審査の対象外となります。  
また、後日判明した場合は、入賞の取り消しをさせていただきます。

### 参考文献の明記

- ・参考にした文献(書籍、インターネット等)はすべて、作文の最終ページに必ず記入してください。記入せずに他の人の文章を使用することは「盗用」とみなされてしまうことがあります。

### 引用するときの注意点

- ・他の人の文章は、なるべく使用しないようにしましょう。
- ・どうしても使用したいときには、引用する文章は変更せず、かぎ括弧をつけて自分の文章と明確に区別したうえで、作文の最終ページに必ず出典を記載してください。
- ・かぎ括弧や出典の記載をせずに、インターネット等で入手した他の人の文章を書き写して作文を作成することは「盗用」とみなされてしまうことがありますので、注意しましょう。

※応募の際は、下記個人情報の取り扱いについて保護者の方にもご確認いただいたうえでご応募ください。

**個人情報の取り扱いについて** ●応募者の個人情報は、入賞作品の選考、入賞者への連絡のためにのみ使用し、主催者および当コンクール業務受託先が責任をもって管理します。 ●応募者本人または保護者の許可なく第三者に個人情報を開示することはありません。ただし、法律や法的拘束力のある命令等に基づいて開示が要求された場合については、その要求に応じることがあります。 ●入賞者の氏名・学校名・学年および作品の一部は、主催者ホームページにて公表させていただきますので、予めご了承ください。



(出典の記入例)

書籍の場合  
○枚目 ○行目 (応募作品当該箇所)・著者名『書籍名』  
出版社名、出版年、参照または引用したページ  
インターネットの場合  
○枚目 ○行目 (応募作品当該箇所)・著者名、タイトル、URL、閲覧日

### 参考文献・出典の記入方法

○1行目	作品タイトル
○2行目	学校名 学年 氏名
○3行目	本文

(記入例)



キリトリ

## 第57回「おかねの作文」コンクール 応募用紙(個人用)

作品タイトル		
ふりがな 氏名	ふりがな 学校名	学年
学校住所 (〒 - ) 都道 府県		市区 郡
学校電話番号 ( ) -	学校FAX番号 ( ) -	
自宅住所 (〒 - ) 都道 府県		
電話番号(日中連絡の取れる先) ( ) -		FAX番号 ( ) -

※マンション、アパート名等も必ずご記入ください。

下記のアンケートにご協力ください ▷ このコンクールはどちらで知りましたか。番号を○で囲んでください。(複数回答可)

1. チラシ・ポスター(学校)    2. チラシ・ポスター(学校以外)    3. 新聞・雑誌・WEB広告(媒体名)    )  
4. ホームページ    5. 知人から    6. 学校・先生(夏休み等の課題・宿題)    7. その他 ( )

※応募者の個人情報は当コンクール以外の用途には使用しません。